奨励賞

松田美八重

＜女性として母として、そしてアーティストとして生きる

－「輝く生命（いのち）の絵画展」事務局を担って－＞

＜要旨＞

２２歳で受傷、四肢麻痺に。機能訓練を受けるため、大学病院から神奈川リハビリテーション病院に移り、「地域で自立」を目指す障がい者の活動に参加。同時に、絵を描く肢体不自由の仲間に加わる。

年に１回の絵画展を開催。「グループ完」結成８年目から、事務局を務める。会員は、頚髄損傷、リウマチ、片麻痺、筋ジストロフィ、脳性麻痺と障がいも様々で、24 時間介護で一人暮らし、施設や病院、家族と同居など、生活もそれぞれで、細やかな配慮が必要となってくる。事務局の役割は、開催準備から絵画展が終了するまで、絵画展に関わる会員とその家族、ボランティアの誰もが「参加している」という意識を持てるよう、手紙、電話、メールで連絡を密にしている。私は、「絵を描くこと」「グループ完の事務局を務めること」に使命感と生き甲斐を感じている。